

序



環境大臣

いせ 百合子

日本列島は、ユーラシア大陸の東縁に沿って約3千キロに渡って連なる島々から成ります。その周囲の海は、冬に流氷が接岸する北方の海から、世界有数の暖流である黒潮に洗われる南方の海まで変化に富んでいます。この黒潮の影響を受ける海域にサンゴが見られます。南日本のトカラ列島より南は、地球上で最北のサンゴ礁海域ですが、多様性の高い、美しいサンゴ礁が広がっています。

サンゴ礁には、サンゴや魚類、底生生物など多様ないきものが集まり、熱帯雨林に匹敵するほど豊かな生態系を織りなしています。そして、サンゴ礁の海に生きる人々は、永い歴史の中で、この豊かな海を上手に利用しながら生きてきました。

近年では、ダイビングを楽しむ人も増え、サンゴ礁も多くの人々に身近なものとして関心が持たれるようになりました。一方で、海岸の埋立て、陸からの土砂の流入、オニヒトデの異常発生など様々な脅威にもさらされています。

環境省では、サンゴ礁の保護などのため、1970年に国立公園の中に海中公園地区制度を創設し、オニヒトデの捕獲などにも取り組んできました。そして、1994年には関係国とともに「国際サンゴ礁イニシアティブ (ICRI)」を設立し、サンゴ礁のモニタリングや自然再生、普及啓発、人材育成などの取組を国内外で展開してきています。

この「日本のサンゴ礁」は、第10回国際サンゴ礁シンポジウムに合わせて、わが国のサンゴ礁とその保全の取組の現状を国内外に紹介するため、日本サンゴ礁学会の研究者等の執筆協力を得て刊行したものです。

ここに、御協力頂いた全ての関係者の方々に対し、改めて心から感謝申し上げます。

本書が、サンゴ礁の保全に関心を寄せる世界各地の方々に新たな手がかりを与え、サンゴ礁の保全と持続的な利用の進展の一助となることを願ってやみません。